

TCFDフレームワークに基づく開示



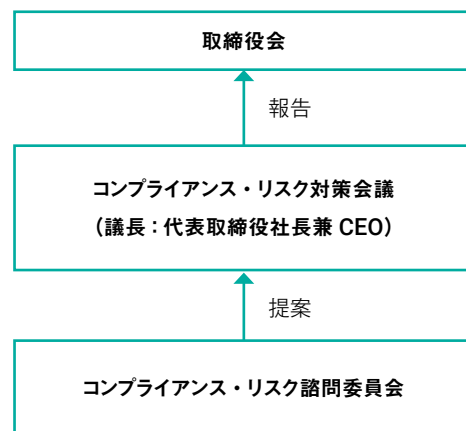
カルビーグループは、気候変動が事業の持続的成長に影響を及ぼす重要課題であると認識し、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言を踏まえ、気候変動シナリオ分析に着手し、以下の枠組みで取り組みを進めています。

ガバナンス

気候変動に関わる課題は、事業活動の持続性の重要なテーマとして捉え、代表取締役社長兼CEOがプロジェクトオーナーとなり、経営企画本部、サステナビリティ推進室を含めたバリューチェーンに関わるメンバーで、気候変動シナリオの検討を実施しました。検討したシナリオに基づき最重要リスクと機会の特定、ならびにその対応策を策定し、経営委員会の審議を経て、取締役会に報告しています。策定したリスクと機会の対応策については、中長期の経営戦略に反映していきます。

リスクマネジメント

事業への影響度、発生頻度によるリスクレベルを総合的に評価し、気候変動を事業継承に影響する重要なテーマとして捉えています。特定された重要リスクは、コンプライアンス・リスク諮問委員会による妥当性検証、コンプライアンス・リスク対策会議による議論を経て、内容と対策を取締役に報告します。



指標と目標

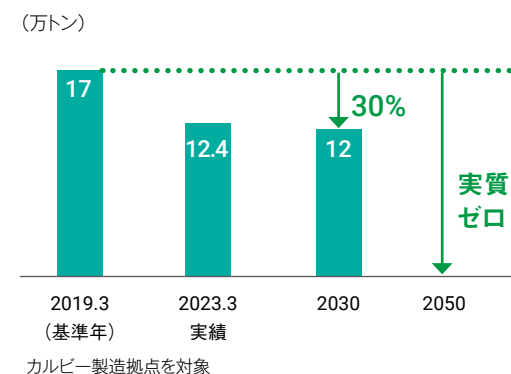
指標

温室効果ガスの排出抑制に向けて、2030年までに温室効果ガス総排出量を2019年3月期比で30%削減することを目指します。さらに、2050年にはScope1、2で温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。また、気候変動の影響による被害を回避・軽減するべく、気候変動に適応したばれいしよ新品種の開発、東北・道央産地のばれいしよ契約面積の拡大を推進します。

目標

- 気候変動に適応したばれいしよの新品種を出願登録(2030年:4品種)
- 東北・道央産地のばれいしよ契約面積を拡大
(2030年:ばれいしよ収量1.5万トン増
2019年3月期国産ばれいしよ調達量の約4.5%に相当)

温室効果ガス排出量の目標



戦略・シナリオ分析

気候変動による中長期の事業リスクと機会の特定にあたり、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）やIEA（国際エネルギー機関）などが発表する「世界の平均気温が4℃以上上昇する」4℃シナリオ、「世界の平均気温がパリ協定で合意した2℃未満の上昇に抑える」2℃シナリオの2つのシナリオで、温室効果ガス排出規制による影響と、主要原料（ばれいしょ）の調達と生産を中心に分析し、整理しました。その結果、2℃シナリオでは災害の激甚化による工場と原料生産地の直接的な被害と、環境意識の高まりによる消費者行動の変化が大きな

インパクトになり、4℃シナリオでは災害の激甚化による工場と原料生産地の被害に加え、日照時間不足によるばれいしょ収量の減少の影響が大きいことが分かりました。

これに対して、自社の温室効果ガスの削減に努めるとともに、ばれいしょの品種転換や品種開発、産地の分散化を進めます。また、エシカル消費への対応や、持続可能な原料の商品開発などが機会の創出になると考えています。今後は、継続的にリスク・機会の見直しや対応策の具体化を進め、中長期の経営戦略に反映させることで、社会共創を実現する企業活動に取り組んでいきます。

気候変動シナリオに基づくリスクと機会

分類	リスク項目	事業への影響	影響度※1	時期※2
移行 リスク	炭素価格の上昇	炭素税導入により工場の操業や原材料などのコストが増加する。	小	中期
	消費者の環境意識の高まりによる行動変化	気候変動によって環境に配慮した商品へ消費行動が拡大する。	中	中期
	石油由来プラスチックの使用規制	石油由来原料の規制によって包材価格が上昇する。消費者意識が高まり、バイオマスプラスチック使用商品の選択が高まる。	中	中期
物理的 リスク	平均気温の上昇による原材料育成影響	気温上昇によってばれいしょの比重の低下が発生する。	小	中期
	降水・気象パターンの変化	降水・気象パターンが変化することで、日照時間が減少し、ばれいしょの生育不良や収量の低下が発生する。	大	中期
	異常気象の頻発化（豪雨、台風、洪水など）	暴風雨などにより収穫時期のばれいしょ圃場の被害が拡大、工場の被災や物流寸断が長期化することで調達・生産・供給量が減少する。	大	短期

リスク対応策	機会
▶ 再生エネルギーの使用 ▶ メタネーション（水素と二酸化炭素からメタンガスを生成し、燃料化）の使用	● エシカル消費に対応した商品開発
▶ 環境配慮型商品や認証商品への取り組み	● 環境配慮型素材を使用した包装容器への転換
▶ リサイクルの推進 ▶ 脱石油由来プラスチックへの転換	● 気候変動に対応したばれいしょの品種開発と転換
▶ ばれいしょ品種の転換・開発 ▶ 栽培技術の確立 ▶ 産地の分散化 ▶ 海外産ばれいしょの輸入ルート確保	● 農業の省人化による原料調達確保・拡大 ● 持続可能な原料の探索と商品開発
▶ 異常気象を想定したBCPの策定 ▶ ハザードマップに基づく工場建設	● 長期保存が可能な食品の開発
▶ 主要商品の生産拠点の分散化 ▶ 海外グループ工場からの供給	

※1 営業利益 大：50億円以上、中：20億～50億円、小：20億円以下 ※2 短期：2024年、中期：2030年頃